

総合計画審議会 第2回 産業部会 1/26 9:30~12:05

出席委員 栗原委員（部会長）、吉田委員（副会長）、岩本委員、豊田委員、福井委員、
福田委員、藤井啓介委員、藤井由美子委員

欠席委員 山田委員、藤井忠篤委員

事務局 総合政策室：森室長、向井企画員、木藤主任、梶井主任

産業部：山根産業部長

農林課：萬場次長

商工観光課：森石課長

1 9:30 開会 森室長

- ・進行、日程の説明

2 あいさつ 栗原部会長 以下進行

- ・出席ありがとうございます。
- ・雪が続いており、農林関係の被害が出ており、復旧しているところ。白ネギ、ブロッコリーの出荷ができない状況で心配しているところ。
- ・すいか、メロンは育苗センターで種まきをし、雪の日射で順調に成長している。
- ・(進行についてレジュメのとおり説明)
- ・ご意見、ご質問をいただきますようお願いしたい。

3 協議事項

<基本構想>

- ・事務局説明

- ・現状（人口減、産業）～強み弱み～基本目標1 基本的施策の説明

栗原部会長）農林水産業、水産は海だけではなく、川もあるということか。

事務局）はい。

栗原部会長）農業の振興となると、農業者の所得が担保されないと後継者が育たない。農業は国の政策によるところもあるが、六次産業、商品加工により所得を増加させるということか。

事務局）農業の振興と商品加工と、両方考えている。基本目標1の施策で説明させていただく。21 ページの基本構想の中では、一番に農林水産業のことを書いている。最初2行で六次産業、後段2行で持続可能な農業を書いている。

栗原部会長）加工所がないといわれる。開発されているのは県外で加工して販売するもの。

施設をどうやってもってくるか。政策のテコ入れが必要。行政より NPO 法人のほうが元

気のように、いろんな発想がでてくる。加工所が中部にない。あれば、経済発展できると思う。消費を引き込みと書いてあるが、魅力がないとこない。農業では農村と都市との交流がある。農村体験のツアーの企画。軌道に乗っていない状況であるが、行政と連携していく必要がある。歴史を検証すると、有名な方もたくさんある。キリンビールの創始者や、中井太一。全国に誇れる人たちに関連した施設など、例えば、キリンビールの施設をつくり、観光客を呼び込むようなことを考えないと人は来てくれないと思う。

吉田副部長) 基本目標1-1の最後の2行に、担い手たちが夢と希望を抱き、地域活力〜と書いてある。担い手たちにこだわるが、担い手が減り、高齢化している。担い手を作らないといけない。その趣旨を書くべきでは。

栗原部長) 担い手は、一般的には少ないという判断をしている。少ない担い手という意味なのか、担い手を育てていかないといけない。

福田委員) 育成と、というような表現を。

吉田副部長) そうです。商業もそうだが、跡取りがいないというのが問題。いたら10年先の希望も見えるが。

事務局) そういう意味を含めてであるが、基本計画になると担い手の育成を大きな柱にしている。

福田委員) 農林水産が入っているが、最後が農業だけになっている。林業、水産業がない。

豊田委員) 商店街にいと、外から観光に来る客は、日本海のそばだから海のものがあるという感覚で来る。カニも倉吉で買えるという感覚。そういう意味で農林水産地域でもある。

栗原部長) 担い手についてはどうか。

事務局) 担い手の育成を図りながら、を入れる。

栗原部長) 後段部分はどうか。

事務局) あわせたほうがよいという意見だと思う。農林水産業を加える。

栗原部長) 製造業の関係はどうか。

豊田委員) オムロン、グンゼ、工業団地があるが、地元の我々がどうバックアップしているかが見えていない。地産地消的な感覚を市民が大事にしないとけない。もう少し広げる意識が必要では。

栗原部長) 大事なことだと思う。製造業も農業も。宣伝する、使う、細かいことだが大事なこと。

事務局) 3番目の4行目に、市街への消費の流出を防ぎながらに、鳥取、米子のジャスコに買い物に行くのを防ぐ、地元の品物を進んで使用するという表現を含んでいる。

栗原部長) 流出を防ぐ、は消極的な表現。積極的に。倉吉で開発された商品を宣伝、PRしていく表現が必要。

豊田委員) 商店街もなりたっていない状況。旧市街地はコンビニなどない。最近になっ

て急に増えた。一時は全国一位の売上のコンビニがあった。地元の消費者が枯渇されていたということ。倉吉だけではないが、専門業者がなくなってきつつある。市民サイドの問題でもあるが、買いたいものを相談して買える場所がない。そういう方向が大事で特性にしていくことが必要だと思う。

福田委員) 消費者からみると、商店の努力がないと買わない。行政の補助金に頼っていてもいけない。現場の努力がないと競争がなく、ジャスコになってしまう。現場の努力がないと、人頼みではいけない。

豊田委員) お店だけでは成り立たない。

藤井由委員) バルコスは、地元で売り出しをしている。すごい人。グンゼでも倉吉市で消費をと思われると、そういうことをされてもいいと思う。売り方だと思う。企業の努力をどうやるか。

福田委員) 売って出るという意識が現場にないといけない。市民もグンゼを知らない。それぞれの現場の努力が必要。消費者、行政だけの問題ではなく。観光についても通過点になってはいけない。現場の磨きが必要だと思うが。意識付けができないか。

吉田副部長) 総合計画の目標は、こうありたいという望みが出てきている。自助努力も必要というニュアンスのものを作っていきべきかなと思う。やってもらうという意識ではなく、自分たちで努力するという総合計画にならないか。

豊田委員) A3のキャッチコピー、もっとインパクトのある言葉で、市民もこっちを向くというキャッチコピーがほしい。

栗原部長) 総合部会でも検討するのか。

事務局) 将来像、キャッチコピーは総合部会で進めていきたい。

豊田委員) もう少しインパクトがないと。

栗原部長) 自助努力を考えて頂くと。

豊田委員) 観光客の流入が増えてありがたいことだが、前までは、若者、バカ者、よそ者ががんばっていればなんとかなってきた。しかし、限界になりつつあることが多い。ブランドがないと、ひきつけるものがない。倉吉のブランド、キャッチコピーも言ったが、ひきつけるものを作る必要がある。客は来るけど財布が固い。地元に戻していく体制がないと観光は育ちにくい。意見です。

吉田副部長) 既存企業の経営基盤の強化～とあるが、安定化を目指し、としたほうがよいのでは。安定化や、というとなんだか長く、わかりにくい。

事務局) わかりました。そのように見直します。

吉田副部長) ブランドというのはとても大切。里見もあるし、淀屋もあるし、伝建もあるし、いっぱいいいものがあるけど、何ってない。

栗原部長) 歴史を掘り起こせば、全国に誇れる人、技術がある。利用しないといけない。

吉田副部長) 淀屋の大きな家を修復しているけど、その先。倉吉のブランドとして活用できればと思う。

事務局) 県外の方が観光として捉えた場合、倉吉のイメージが浮かばないということか。

吉田副部長) 生活感があふれる、静かで、いい街と聞くと、ひとつ、ボーンと。

福田委員) 象徴的なもの。

栗原部長) 情報発信がされていない。そこにもっと力を入れて、インパクトのあるものを。

福田委員) 市民がどれだけ知って誇りに思うかというところと少ししかいない。

吉田副部長) 白壁土蔵も全国にいっぱいある。倉吉にしかないもの。

豊田委員) 多すぎて、絞りにくい面もある。ホスピタリティを求めているのか、歴史文化を求めているのか、体験的なものを求めているのか、いろいろやってみて。

栗原部長) 発信力が弱い。

福田委員) 地域力が弱い。中途半端で終わっている。限られたものをコンパクトに収めようとするので、

事務局) ブランド、発信は基本方針で書いてある。取組方針。

岩本委員) 外部に対する発信、倉吉市民に対する発信も大事。内部。地元を固めて。基本目標と具体的な実施方法を分けて考えないと。

事務局) 地元と外部の情報発信力を強めという表現に変えて。具体は基本計画としたい。

< 施策 1 > 事務局説明

栗原部長) 食品加工業の育成強化という表現だが、育成強化に向けて、具体的な施策を打ち出すということか。加工所があればずいぶん大きくなるかな。

藤井由委員) 加工所ができて、技術がない。平成 15~16 年に米粉のパンをやったことがあるが、パンを焼く技術がなく、外注に出す。加工所があっても技術がないと。商品化して儲けてということにはならない。米粉でうどんやラーメンもやったが、外注になり、儲けにつながらない。機械を買うお金もなく、技術もない。加工で、六次産業で、というのは難しいところがある。かきもちは何年もやってきたが、自分のところでやるには、いろいろな許可がいる。

栗原部長) 何が問題になっているのかを整理して、行政として支援できるのか、できないのか、農商工連携で技術を持ち寄って開発をしていく。

福田委員) 米粉にしても、JA 女性会中心に作っている。そこから先。そこがフォローができれば。販売もやっていかないと長続きしない。事業としてなりたっていない。

吉田副部長) 現状と課題に書いてある。作ったままの姿ではなく、利益の出る方法で売っていきたいということが書いてある。ぜひやってほしい。

豊田委員) 観点が違うが、農業を体験することが必要。食物というものが、景観に影響する。景色。牛を見ながらステーキを食べる、健康的に牛が育っているなど。うまそうな感じがする。そういう認識が必要。景観と食物。

吉田副部長) すばらしい景観がブランド化にはいい資源になる。

栗原部会長) 農業大学校のほかにも、高校もある。酒を造って販売したりしている。

吉田副部会長) 指標の製造業の製造出荷額について。4人以上というのは意味があるのか。

事務局) 工業統計調査で。統計調査で毎年おこなっているものは利用したいと考えている。

<施策2> 事務局説明。

栗原部会長) 二十世紀梨をとってしまうと、インパクトがなくなる。第2位にこだわるのか。

事務局) 基本構想P8におなじような表現をしている。そこにスイカ、大豆、全国有数の20世紀梨の産地と表現している。

栗原部会長) 食の教育は？また、選果場の食べ放題ツアーなど、引き続いて力を入れてやっていくのか。観光の中の。

事務局) そうです。

豊田委員) 観光地で販売が気楽にできるように、メロン、スイカを置いたらPRになると思う。

事務局) 赤瓦の地元のスイカ、メロンの話を昨年聞いた。赤瓦には、大山乳業の牛乳が売ってなく、岡山の牛乳がおいてある。今年から地元のを地元で買えるような状況を作っていきたい。スイカにおいても選果場まで買いに行くのではなく、赤瓦の中で販売できるように検討したい。

栗原部会長) サンプル提供はするので、よろしくお願ひしたい。また、満彩館はバスも止められる。

事務局) 食育のことは学校教育のところで入れている。また、健康づくりの促進で、食生活改善推進員を中心に普及啓発をしていくと記載している。

<施策3> 事務局説明

豊田委員) 環境エネルギー産業の育成について。私の会社では、2重ガラスを作っている。

育成というと外から取りこむという印象。地元企業もやっているが、設備投資などの課題もある。地元企業を育成するための施策を考えてほしい。

吉田副部会長) 企業ニーズの把握に努めながら、というところ。

事務局) そういうことを考えている。

栗原部会長) 方針に対してどういうことをやったか、を整理して進めていく必要がある。

福井委員) これまで企業誘致は西倉吉工業団地だった。新たな工業用地の確保とあり、踏み込んだ表現になっている。

事務局) 西倉吉工業団地の2.4haの誘致もあるが、企業の要望があるので、適地を見つけていくということ。今まで施策としてなかったが、踏み込んでいる。

福井委員) 関金の用地のことか。

事務局) 関金の金谷工業団地を含めて誘致活動しているが、それ以外にという意味。

吉田副部長) 関金を含めてか、倉吉市か。

事務局) そうです。定住自立圏構想の中で、中部一体となって誘致活動をしていこうという動きもある。

吉田副部長) 中部は一つでやっているから。

栗原部長) 数値目標は次回に間に合うか。

事務局) 次回の会でお配りできる。

吉田副部長) 成果指標の既存企業の増設について。増えただけでなく、地元の会社ももっと力をつけるということが入らないか。

事務局) 県外からの企業の規模拡大を数値目標と設定している。補助金を活用した企業の増設件数を設定している。地元企業の増設もあるが、成果指標のまとめはそのような考え方で理解願いたい。

<施策4> 事務局説明。

福井委員) 現状と課題。平成21年11月～平成22年2月にアンケートを実施しているが、定着率が低い。高校卒業後、5年以内の転職率が高い。県の支援を得ながら、定着される環境づくりに取り組んでもらいたいという要望。指標の中に、定着率が入らないか。

事務局) 把握が難しいと思う。ハローワークで教えてもらえるか、検討したい。取れるようであれば載せたい。

吉田副部長) 10年以上の表彰とかありますね。

栗原部長) IJU ターンについて。農業生産法人のアグリ大黒に担い手育成機構の事業で県外から2名研修に来ている。1名が就農希望だが、家が見つからない。その辺、受け入れ態勢を充実してもらったら。

事務局) 充実したものにしていきたい。

福井委員) 登録済みの空き家は？

事務局) 倉吉空き家バンクをやっており、戸建3件登録されている。また、宅建協会と協定して、会社が持っている物件も対象にしてやっている。問い合わせが多くニーズにこたえられていない。これまで新規就農で2件入ってきている。

<施策5> 事務局説明

福田委員) 薬膳料理・牛骨ラーメンという具体名を挙げるほどのものなのか。牛骨というイメージ。また、薬膳料理を出すほど育っているのか。ご当地グルメから始めてはどうか。質の向上をはかっていかないといけない。特化して出すべきものか。

栗原部長) 確かに、牛骨にピンとこない。この二つがグルメになっているが。

事務局) 薬膳料理を育てたい思いもあるので、入れたい。牛骨ラーメンが具体的すぎるのであれば・・・。

福田委員) 今ブームなので。倉吉発ではないし。

事務局) 今までの取組みの中で、開発されないという中で出てきた。活用したいという意味合い。

福井委員) 梨の花温泉郷について。看板などで179号で1市4町のものがあるが、313号は整備されたのか。また、市独自の取組みの現状はどうか。また、情報交換について、日本海ケーブルとTCCの連携がなされていない。赤碕、琴浦のケーブルテレビが見れない。逆に見てもらえない。湯梨浜町と琴浦が一つにされた。なんでひとつにできないのか。11次総では書いてないのか。

事務局) 定住自立圏構想では、一本化に向けて、NCNとTCCで協議中。総合計画では、行政経営の取組みの中の、P10 目指すべき姿の、より効果的・効率的なまちづくりで、定住自立圏構想の推進で具体にしている。ケーブル自体はつながっているらしい。

福田委員) 一緒に番組を作ったこともある。別々の会社であるため、ダイジェスト版のような形で出れば、情報が入る。

岩本委員) 観光のPRについて。先日、四国にいった。案内する人が楽しかった。ボランティアでやっているか。PRになると思うが。

事務局) シルバー人材センターで観光ガイドをやっている。

岩本委員) いいように見える。楽しく感じる。

栗原部会長) 磯野長蔵さんも倉吉市民は知らない。キリンビールの会が地道に活動しているが。キリン会館を倉吉につくるとか、インパクトのある観光施設をつくるとか。食のみやこフェスタをやったとき、アトリウムと広場が中途半端なことになっていた。ラグビー場の有効活用を。ドームにしていつでも大きなイベントができるようにできないか。

事務局) 具体化する上で検討したい。

豊田委員) アクセスが難しくなっている。市役所でさえ説明する時に難しい。本気で検討すべき。179号、313号をつなぐ、バス通り、市役所線、産業道路をもっとしっかり。駐車場ができたけど、利用率はいいのか。無料の1時間で利用はあるだろうが、観光客は使われない。なぜ有料化したのか。次に旧市街地の空き店舗の問題。商工会議所もやっているが、悪い。構造上、間口3間、奥行20間。表を人に貸すと、家に入れなくなるため店が貸せない。そのため、路地を作っていく必要がある。妻側から出入りできるとか。60坪に3人しか住んでいない。空き家対策を含めて検討できる余地があるのでは。

事務局) 空き家対策は施策でも挙げているが、路地という発想は初めて聞いた。参考にしたい。

吉田副部会長) 倉吉駅を付加価値をつけて、ということを入れられないか。

事務局) 背策6で説明している。

<背策6> 事務局説明

吉田副部会長) 起業者の数。全部が商工会議所に相談するわけではないが。

事務局) すべての人が商工会議所に入っているわけではないため、数値がつかめない。
吉田副部会長) 大型スーパーが商工会議所に入っておられない。商工会議所に相談もない。
事務局) 大型店は考えていない。起業とは考えていない。小規模での空き店舗を利用した人たちを支援していくというもの。

栗原部会長) 全体をとおしてあれば。情報発信力の強化がどこに出てくるのか。市報も名前を変えて、紙面の内容を刷新して。よくなってきたが、行事予定、連絡色が強い。コンパクトにまとめて、倉吉市の政策をしぼって訴えていくとか、情報発信してほしい。編集委員会がどうなっているのかわからないが。いいところもあるし、歴史上の人物もあるし、市民に周知徹底できていない。そんな記事を増やしてほしい。

福井委員) 行事予定であれば、まとめてやるとか、分けるとか、いろいろ検討してほしい。
事務局) 情報の発信は、行政経営の一番最後に充実させることを記載。検討しながらやっていく。

栗原部会長) 次回は2月2日、9時30分にこの場所で。欠席のかたは事務局まで連絡を出した意見を参考にして、修正し、2/2までに郵送するのか。

事務局) 一覧に整理して、検討結果を事前にお送りしたい。また、当日も議論したい。そういう整理の方法でまとめていきたい。案内は早速ださせていただきたい。

栗原部会長) 長時間にわたり、たくさん意見を出していただき、次回、最終検討であるが、ふまえて意見を出していただければと思う。閉会します。

12:05 閉会